

市町村意見照会の結果について

- 1 意見照会期間 2019年9月12日（木）から10月11日（金）まで
- 2 意見提出件数 6件（4市町）
- 3 意見の概要

中間取りまとめ該当箇所		意見の概要 < >は意見提出市
Ⅲ 1 (Ⅲ 6) 〔 地方分権と 自治体間の 連携の推進 〕 《 2市1町 》	事務事業の合理化と行政サービスの向上	<p>根源的問い直し作業を実施するにあたり、「民間・行政・地域」や「国・県・市町村」の役割分担を検討したうえでの見直しは重要な視点ではありますが、見直し作業による事業・施設の廃止等は県民及び市町村にとっては大きな影響がありますので、慎重な検討をお願いしたい。</p> <p style="text-align: right;">< 碧南市 ></p>
		<p>県に対する申請手続き等に関する合理化については、県民や事業者に対するものだけでなく、市町村が行うものについても検討いただきたい。</p> <p style="text-align: right;">< 碧南市 ></p>
		<p>業務の効率化は愛知県及び市町村にとって共通の課題です。愛知県では2018年度にRPAの実証実験を、今年度は県と市町村が参加するあいちAI・ロボティクス連携共同研究会が設置され、RPAやAIの利用検討が進んでいます。これらのシステム導入には各市町村単位では多額の費用が必要となるため、市町村単独ではなかなか導入が進みません。</p> <p>そのため、愛知県も積極的にこれらのシステムを導入し、県の業務効率化を進めるとともに、市町村との共同利用による県下市町村への負担軽減となる取組みを主導していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">< 碧南市 ></p>
		<p>AIやRPAの活用による業務効率化が自治体共通の課題である中、これらの「革新技術を積極的に活用することで、業務を効率化し、生産性を向上させる」ための取組みとして、県は市町村と連携し、「より低コストで効率的な導入」に向けた「あいちAI・ロボティクス連携共同研究会」を設立し、導入・利用に向けた検討を進めている。</p> <p>RPAの実用化に向けて、例えば、税の申告書に記載された文字情報をデジタル化する際のAIによる文字（特に漢字）認識率を一層高い水準まで向上させるなどの技術的な課題を解消する必要があるため、県においては、引き続き市町村を積極的にリードし、早期実用化に向け、将来を見据えた「基盤づくり」を強力に推進していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">< 稲沢市 ></p>

中間取りまとめ該当箇所		意見の概要 < >は意見提出市
Ⅲ 1	事務事業の合理化と行政サービスの向上	<p>「A I や R P A 等 I C T の活用による自動化の他、不要なプロセス・書類の省略などの業務改革を実施する。」とありますが、市町村においても今後積極的に取り組んでいく事項と思われます。愛知県も市町村も似た事務を行っていることもあり、具体的な事例等について共有できるよう情報発信をしていただきたい。</p> <p>また、導入効果の推計において、削減された時間、時間外勤務手当については記載されているが、R P A 導入に係る経費についても記載をしていただき費用対効果を明示していただきたい。</p> <p style="text-align: right;"><大町></p>
Ⅲ 6	地方分権と自治体間の連携の推進 《 1 市 》	<p>「6 地方分権と自治体間の連携の推進」について、「今後は、各市町村の自主的な取組に加えて、広域で取り組む課題等に対しても適切に連携・協働を進めていく。」と記載がありますが、上下水道事業や消防の広域化の検討、A I やロボティクスの活用したシステムの連携共同導入・利用（共同調達）といった県も含めた全団体共通の課題の検討については、市町村間のみでの連携の検討には限界があり、県と適切に連携・協働を進めるのはもちろんのこと、県の強力なリーダーシップによる積極的な支援が不可欠であると考えます。</p> <p>このため、権限移譲について積極的に進めるだけでなく、上記の記載についても県が強力なリーダーシップを発揮できる力強い表現としていただきたい。</p> <p>また、「持続的な経営を確保するための上水道事業、下水道事業の広域化の検討や、消防の広域化の検討といった市町村の区域を越えて取り組むべき課題について、適切に連携・協働を推進する。」についても上記の理由から県が強力なリーダーシップを発揮できる力強い表現としていただきたい。</p> <p style="text-align: right;"><尾張旭市></p>